

インターバンクの声（2017年1月25日）

昨日の東京外国為替市場の早朝、円相場はニューヨーク市場の終値水準から30銭ほど円高側に窓を開けて始まり、日中2度も112円50銭台までドル売りが進んだ。一段と円高が進みそうな雰囲気の中、何とか113円前後に戻したところでロンドン市場に渡ったが、商いは閑散状態だった。113円台前半での値動きが暫く続き、米長期金利が上昇し始めたことから若干ドルが買い戻された。

それでも113円50銭は越えられずに12月の米中古住宅販売件数の発表を迎えたが、市場予想を下回る結果だったことで再びドル売りが加速して112円台に戻ってしまった。ニューヨーク市場もドル売り展開かと思われたが、米長期金利の上昇が続き、原油価格や米国株の上昇も重なったため、ニューヨーク市場の終盤には113円台後半までドルが上昇した。

以前なら今日の東京市場でもドル買いを続けて良さそうな流れだが、トランプ米新大統領による自動車産業を中心に貿易面での対日批判が続き、ドル高への懸念発言も引っ掛かっており、素直にはドルを買い難い。チャート上で気になる114円10銭水準を越えるまでドルを買うのは待ってみたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。